



岸田川（きしだがわ）について

岸田川は、兵庫県と鳥取県の県境北部に位置する扇ノ山（おうぎのせん）に発し、新温泉町を貫き、日本海へと注ぐ。

新温泉町は、海と山に囲まれた自然豊かな「温泉の町」として知られる。町の歴史は古く、江戸時代には西回り航路の北前船の寄港地として栄え、川や水に関わる伝統行事や風習が今もなお受け継がれている。



岸田川の現状

当会の活動区域である岸田川の中・下流域にはギンブナやカワムツ、ドジョウ類、スナヤツメ等の純淡水魚や、アユやカマキリ（アユカケ）、カワヤツメなどの通し回遊魚など多様な魚類が生息している。また、サケやサクラマスの上流がみられるなど、古くから恵み多き川として流域住民に親しまれ、利用されてきた。

しかし、近年、山間部における原生林の減少などによって、土砂の堆積が河道内で著しくなっている。また、その影響で浮き石が減少したり、河床が平坦化したり、外来の水草が増えるなど、河川環境が悪化している。

さらに、生活環境の変化にともない、子どもやその親世代の川と触れあう機会が減少しており、不法投棄が後を絶たないなど、環境保全に係る流域住民の意識が低下している。恵み豊かな岸田川の環境を保全し後世に残すためにも、河川環境やその保全に係る意識の啓発が求められる。

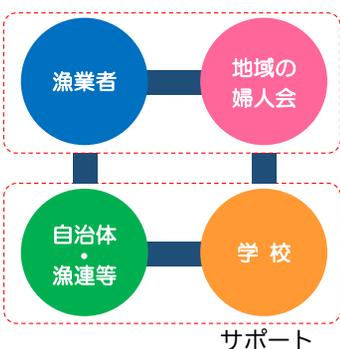


組織の設立と活動の目的・方針

前述の課題の中、漁協および漁業者が主体となり、平成 25 年度に「岸田川を守る会」を設立した。組織の体制は、地域の婦人会を加えて構成し、町や漁連、地元高校生のサポートを得ながら取組を進める。

活動目的は、町にとって大切な岸田川の環境を後世に残し、その保全を引き継ぐことにある。そのための活動方針は、以下のとおりである。

活動組織



○ 岸田川環境の保全

拡大傾向にある外来の水草や河道内のゴミを、子どもたちと一緒に除去し、河川環境の保全とその継承を促す。

○ 河川環境やその保全に関する啓発

川離れにある子どもたちやその親世代に岸田川の魅力を伝え、その保全への理解を増進する。

岸田川の魅力を伝え、環境をまもる

(1) 岸田川環境の保全

河川空間の親水性を高めるため、また、河川環境の保全を子どもたちに継承するために、清掃活動を実施している。

親水性の向上を目的とする清掃では、アユ釣りや川の普及啓発活動を行う前に、河道内の草刈りやゴミ拾いを行う。一方、環境保全の継承を目的とする清掃は、地元の高校生と一緒に外来のカナダモ類を除去したり、河原のゴミ拾いを行ったりしている。



(2) 河川環境やその保全に関する啓発

流域で暮らす子どもたちやその保護者を対象に、「釣り教室」や「岸田川まつり」を開催している。

釣り教室は、定員制（30 名程）で行う。教室では、釣り体験だけでなく、岸田川の環境の現況なども説明する。また、参加者と一緒に未就園児もくることから、簡易なタッチングプールを用意する。加えて、婦人会主体で用意したヤマメの塩焼きなどを試食してもらう。



岸田川まつりも、定員制（100 名程）で行う。内容は、パネルや在来魚の入った水槽を用いて岸田川で暮らす魚介類やその環境の現状など座学する。次に、アユのつかみ捕りを体験し、その後、アユの塩焼き体験を保護者と一緒に行い、試食する。



活動の効果と今後の方針

当会の取り組みや漁協で長年行ってきた普及活動をキッカケに、岸田川が一部の高校生の環境保全学習のフィールドになっている。例えば、アユを対象とする遡上調査や産卵床づくり、小わざ魚道づくりなどが課外授業で行われるようになった。また、小学校の授業の一環で、岸田川やその支流で自然観察会が行われるようになった。加えて、岸田川での取り組みが、新聞等のメディアで紹介される機会も増加した。

今後も活動を継続し、広く一般に岸田川の魅力やその保全への理解を深めてもらい、次世代に川や自然を想う心を継承していきたい。

